

次期計画における施策の方向性について ～委員意見整理～

平成28年6月実施

【リフューズ(Refuse)：ごみとなるものの受け取りを断る】

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 |
|------------------|----|------------------------------|---|---|
| ①マイバッグ持参運動の推進 | 継続 | 9/10 *学識経験者2名を除く。 以下同じ | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○呼びかけだけではだめ。事業者の努力(あるいは協力)無しでは効果が無く、事業者も対象とすべき。フランスでは事業者が有効利用を図っている。 ----- (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：2件) ○現在コープ新光風台では、マイバックの持参率が97.8%(2016.5現在)と、コープこうべ全店平均87.1%を大きく上回っている。引き続き町ぐるみで持参呼びかけをお願いしたい。 ○当然の項目。住民意識は高い。ただし分類などの袋がほしい場合もある。昨今はエコバックを配布するお店も少なくなっている。ちょっとした買い物の際は受け取ってしまう。⇒社会の盛り上げ策をもう一度図るべき(啓蒙策に反映) | 継続 町の考えと同じく、ほとんどの委員の方が減量施策の一つと認識していただいています。身近に取り組める、ごみ減量の重要な施策と考えられるため、事業所への協力の働きかけも含めて積極的に啓発等に取り組んでいきたいと考えています。 |
| ②簡易包装による販売や購入の促進 | 継続 | 9/10 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○呼びかけだけではだめ。事業者の努力(あるいは協力)無しでは効果が無く、事業者も対象とすべき。フランスでは事業者が有効利用を図っている。 ----- (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：1件) ○当然の項目。住民の意識は高く、実施されている。新たな策ではないため、減量化の効果は薄いと言える。 | 継続 町の考えと同じく、ほとんどの委員の方が減量施策の一つと認識、または減量効果は薄いとしながらも減量施策として認識いただいています。簡易包装によるごみ減量は効果的な施策であると考えられることから、事業所への協力の働きかけも含めて積極的に啓発等に取り組んでいきたいと考えています。 |

【リデュース(Reduce)：ごみとなるものを減らす】

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 |
|-------------|----------|-------------|--|---|
| ①適量購入の促進 | 継続 | 8/10 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：2件) ○年金生活の高齢者が増える中、捨てるほど無駄な買い物をする人は少数である。 ○呼びかけだけではだめ。事業者の努力(あるいは協力)無しでは効果が無く、事業者も対象とすべき。フランスでは事業者が有効利用を図っている。 ----- (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：1件) ○当然の項目。誰も無駄な物を買おうとはしていない。呼びかけて効果があるのか。 | 継続 アンケートの結果からもうかがえますが、住民の皆さんの気持ちには、無駄な買い物をする意識はほとんどありません。委員も同様の意見を述べられていることから、「適量購入」というより、食べ残し等のごみを削減(食品ロスの削減)することが減量につながると思われるため、同様の内容であるエコクッキングと併せて積極的に啓発等に取り組んでいきたいと考えています。 |
| ②エコクッキングの推進 | 強化 継続 | 9/10 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○食生活として、生きるために食べるのはもちろんだが、「し好」ということもある。 ----- (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：2件) ○これは良いことですが、一般的にできるのか。 ○当然の項目。エコクッキングの効果がわからない。教室など住民は期待しているがその機会が無い。減量化促進イベントとの併設で機会を増やすことが求められる。そのために「ボランティア育成プログラム」が必要。販売者や農家の売れないものをどうするか。 | |
| ③生ごみの水切りの徹底 | 強化 継続 | 7/10 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：3件) ○目標「g」のみの表示だけでなく、達成することによりいか程の負担金減額になるのか表示してほしい(主婦は〇〇円安くなるに敏感です)。 ○水質汚濁にも直接関係するので一面的には考えられないところがある。生ごみのコンポスト | 強化 経費の削減効果については、平成26年9月発行の環境特集号でも紹介しているところですが、今後も周知を積極的に行っていきたくと考えています。また、コンポストについても平成22年9月発行の環境特 |

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 |
|-------|----|-------------|--|--------------|
| | | | しているのではなく、検討しつくされていない項目が多く、慎重に記載すべき。 ※慎重に記載すべき項目＝目的の説明が無く不備といえる。公平化の検討が十分にできているとは思えない。可燃ごみだけの有料化の検討だけである。新光風台アンケート結果では新聞購読者とビール愛飲者の排出量に大きな差があることが明確となり資源ごみも回収に公費を投入したく、検討すべき項目と考える。 | |

【リユース(Reuse)：繰り返し使う】

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 |
|-------------------|---|-------------|--|--|
| ①衣類・家電・家具などの減量の推進 | 衣類のリフォーム店や家電や家具の修理店などを利用して、ものを大切にできるだけ長く使えるようにする。 | 継続 | 8 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：2件) ○「安物買いの銭失い」はわかっているが高級品は買えないのと、一般の人の買う製品は修理よりも買い替えた方が安い。 ○項目を分けて「強化」、タイトル変更すべき。衣類のリフォームと家電の修理は別物として捉えるべき。少ない衣類のリフォーム店とのコラボで機会を増やせる策が別途必要。家電は修理店も多く生活に密着しているため住民の意識も高い。買替行動は、生活向上目的や省エネ目的で使えるものが排出される。廃棄物減量化はリサイクルや中古品売上の機会を増やすことが求められる。リサイクルの強化策が必要。家具の修理はあまりにも機会が少なく、削除かリサイクルの強化を行うこと。 | 継続 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。修理よりも買い替えたほうが安い、また、買替行動は、生活向上目的や省エネ目的で使えるものが排出されるといわれているのは当然のことだと考えられますが、本項目はそれらを理解したうえで、物を大切に長く使っていただくことがごみの減量につながることを再認識していただけるよう啓発していきたいと考えています。 |
| ②リサイクル情報板の活用推進 | 平成23年度から実施しているリサイクル情報板について本町ホームページや広報誌、環境特集号等を活用して周知、推進していく。 | 継続 | 8 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：2件) ○なぜか低調なように思える。数カ月に一度でも「とよの」の別紙(挟み込み)のような目に触れやすい方法をとればどうか。 ○利用者と成約件数を増やす努力が必要。情報板の活用だけでは不足。仕組みの構築を「強化」すべき。まだ使えるものの廃棄抑制には、住民が利用できるリサイクルシステムの構築が重要。高齢化が進む本町では「簡単にらせるリサイクル」「簡単に買い取ってもらえる機会を増やす」など、民間の参入やボランティアの育成が、行政として必要な項目と思う。 | 継続 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。環境課が発行する環境特集号を「広報とよの」と一緒に配布しているところですが、この中で「リサイクル情報板」の活用についても周知していきたいと考えています。また、国崎クリーンセンターでは、ベビー用品のリユースについて「かえっこ」システムに取り組みされており、こういった情報も積極的に周知していきたいと考えています。 |
| ③フリーマーケット等の活性化 | とよのまつりや国崎クリーンセンターで実施しているフリーマーケット等の情報を提供し、ものを捨てないで活かして使うようにする。 | 継続 | 9 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○フリーマーケットの機会を増やす策も必要。情報板の活用だけでは不足。仕組みの構築を「強化」すべき。まだ使えるものの廃棄抑制には、住民が利用できるリサイクルシステムの構築が重要。高齢化が進む本町では「簡単にらせるリサイクル」「簡単に買い取ってもらえる機会を増やす」など、民間の参入やボランティアの育成が、行政として必要な項目と思う。 <hr/> (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：1件) ○一時的に減ってもいつかは捨てられる。物品が消えてなくなるわけではない。 | 継続 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。一時的に減っても、いつかはごみとして処分されるものというご意見のとおり、減量効果としては大きく期待できるとはいえませんが、フリーマーケットを通じ、物を捨てないで生かして使うことの大切さを認識いただければと考えて、今後とも情報の発信に取り組んでいきたいと考えています。 |
| ④リターナブルびんの利用促進 | リターナブルびんの利用と酒屋などへのビンの返却を徹底して、ワンウェイびんの使用を抑制する。 | 継続 | 9 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○「不要」では。インセンティブを実施するリターナブル瓶は非常に少なくなっている。調味料類や健康ドリンクはワンウェイ瓶しかなく、住民に呼びかけても減量につながらないと思う。 <hr/> (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：1件) ○最近、一升ビンなど、業者は嫌がる。 | 継続 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。リターナブルびんの主なものとしては、ビールビンや日本酒、醤油の一升ビンがあげられますが、近年、ペットボトルや紙製容器により家庭での利用が少なくなっていると考えられます。しかし、リユースの観点から見て、できるだけ意識してリターナブルびんを使うことが、ごみの減量につながることを認識いただけるよう、今後とも啓発に取り組んでいきたいと考えます。 |

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 |
|----------------|---|-------------|---|--|
| ⑤事務用品等の長期使用の促進 | 事務用品、備品、設備などは修理してできるだけ長く使う。 | 継続 | 8 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：2件) ○「安物買いの銭失い」はわかっているが高級品は買えないのと、一般の人の買う製品は修理よりも買い替えた方が安い。 ○事業者向けでは？具体的施策のタイトルとしては「不要」ではないか。企業は経費節減に努力していると思う。環境教育の一環で子どもたちに指導することは意味がある子どもからの環境施策は家庭や親の意識を変えることにつながることもあり、説明文を変えるべきと考える。 (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：1件) ○事業者では？ | 継続 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。内容的には事業者向けの減量施策ですが、ごみの総量を削減する施策の一つとして、事業者に啓発と協力依頼を求めています。 |
| ⑥再生品の利用促進 | プリンターのトナーカートリッジ等はできるだけ再生品を使う。また、グリーン購入などの環境配慮型商品の購入を推進する。 再生原料から作られた商品や環境配慮型商品の利用を促進する。 | 継続 | 10 / 10 (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：2件) ○「強化」。どんどんやるべき。プリンターインク等再生品しか使用しない。それでつづれたら買い替える方が安い。ごみは増えるが。 ○当たり前の項目として「継続」。 | 継続 委員全員が継続していくほうが良いとされていることから、事務局案のとおり「継続」とします。 |

【リサイクル(Recycle)：資源として再利用する】

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 |
|----------------|--|-------------|---|---|
| ①環境配慮型商品の利用促進 | 再生原料から作られた商品や環境配慮型商品の利用を促進する。 | 継続 除外 | 5 / 10 無5 | 除外 賛同5名、無回答5名となっていますが、特に意見がないことから、事務局案のとおり「除外」とします。 |
| ②①食用廃油の拠点回収の推進 | 食用廃油の拠点回収を引き続き推進していく。 | 継続 | 9 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○継続する意味がよくわからない。住民の利用機会が少なく、持ち込み量は極めて少ない。店舗回収も5店舗で常時でないため住民の意識が少ない(アンケート結果でもC)。常時回収箇所を増やすことができないのであれば効果が無いのではないかと。石鹼を作る経費をPRに回せないか。 | 継続 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。アンケートの結果では、取り組みを行っていない方が多いことがうかがえ、周知が不足していることがわかりました。食用廃油は、役場や吉川支所前での拠点回収の他、特設臨時回収の回収拠点として町内5店舗の協力を得て実施しているところですが、今後は、各自治会にも協力を求め、例えば、自治会館に簡易の回収容器を設置するなどのお願いをし、回収量の増加を図っていきたく考えています。なお、集めた食用廃油は、リサイクル業者に引き渡し石鹼化していますが、本庁舎と吉川支所の回収BOXから廃油を引き渡す経費のみで、別途、石鹼を作るための経費はありません。 |
| ③②集団回収の推進 | 集団回収を引き続き推進する。 | 継続 | 9 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○資源ごみの相場は刻々と変わるように思われ、各団体に給付される金額が売却益よりも大幅にオーバーするのであれば相場とスライドさせて、増減があっても良いように思う。 (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：2件) ○どんどんやろう。 ○住民の意識は高く、利用率約96%(新光風台調査)。廃棄物の減量化につながっている。処理削減効果と財政面での効果があるなら広報で知らしめるべき。各自治体の集団回収について「とよの」配布の際、一覧表の折り込みを検討しては。年間計画もあり、地域別回収日の広報も行う。 | 継続 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。なお、町が行っている「紙類等の収集」と「集団回収」は制度が異なります。町が行っている「紙類等の収集」は、委託業者によってご家庭から集めた後、紙の間屋に売却して町の収入としていますが、「集団回収」は登録団体と紙の収集業者が直接やり取りを行っており、団体から引き渡した紙の売却は町の収入になっていません。「可燃ごみ」から、紙類を抜く(資源化する)ことで、「可燃ごみ」の減量化を図るために「行政による紙類等の収集」と「集団回収」を行っています。 |

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 |
|---------------------------------------|---|-------------|--|---|
| ④③店頭回収の推進 | スーパーなどで実施している発泡トレイや紙パックなどの資源回収について引き続き協力を求める。 | 継続 | 9 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○「強化」すべき。店舗と合意できるかが鍵。店頭回収はスーパーが身近にあることに比例している。西地区3店舗、東地区1店舗しかないが、その地域は強化する。無い地区は回収拠点を増やせるのか。 (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：1件) ○事業者では？ | 継続 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。店頭回収では、事業者の方から、その店舗以外で購入されたものも回収箱に投入されるとの相談もいただくが、事業者の企業方針により自主的に取り組んでおられる場合もあり、今後とも事業者と協力しながら、啓発等に取り組みたいと考えています。 |
| ⑤④紙類、空きカン、空きビン、ペットボトル、植木剪定くず等の分別収集の促進 | 資源ごみとして、紙類、空きカン、空きビン、ペットボトル、植木剪定くず等の分別収集を引き続き推進してゆく。特に、紙類については、可燃ごみの中に混在している実態が多く見受けられるため、さらなる分別の徹底を推進する。 | 強化 継続 | 8 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：2件) ○有料化「強化」。資源ごみだから売却益があるように勘違いしていたが、採算が合わないことを知った。町にとっては経費がかかることを前面に出し、店頭回収の推進と手選別を最小限にとどめるため容器包装の細かい回収をやめ、ペットボトルとトレイのみにすれば経費削減になると思う。 ○項目を分類し、「強化」すべきところと「継続」するものに分ける。更なる分類の取組は資源化と重量削減につながる。テーマと具体策を分けるべき。その他紙の分類は意識を高める施策に取り組む、強化。庭木の剪定、落ち葉、草は選別し乾かす努力をお願いし、可燃ごみの重量を減らすPRも重要。社会福祉施設への「アルミ缶」提供は喜ばれていると認識しているが資源売却による財政効果と削減効果の差は。回収協力をしている団体（社会福祉施設等）の公表と呼びかけをしては。 (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：1件) ○事業者も含まれる。 | 継続 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。資源ごみについては、収集後、国崎クリーンセンターで中間処理を行っていますが、特に容器包装プラスチック類は選別・圧縮・梱包と、処理も非常に手間がかかっています。しかし、国崎クリーンセンターを組織する猪名川上流広域ごみ処理施設組合が、容器包装リサイクル法に基づいて処理を行っているものであり、本町だけが、収集をやめることは難しいと思われます。また、「カン」の収集については、「アルミ缶」と同時に「スチール缶」も収集していることから、「アルミ缶」の収集が少なくなったとしても、収集に係るコスト変わらないと考えられます。 |
| ⑥⑤有害ごみの適正処理の推進 | 小型充電式電池やボタン型電池は販売店への返却を呼びかける。蛍光灯や筒型乾電池など有害ごみは引き続き分別収集を行う。 | 継続 | 10 / 10 (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：2件) ○事業者。 ○分類の仕方の積極的PRと回収拠点の紹介をすべき。充電電池・ボタン電池と蛍光灯・乾電池は分類方法が異なるため項目を分けるべきと思う。 | 継続 委員全員が継続していくほうが良いとされていることから、事務局案のとおり「継続」とします。なお、住民アンケートの結果では、取り組みを行っていない方が多いことがうかがえるのと、小型充電式電池やボタン型電池の町内の販売場所が少ないため、次項の「小型家電製品の拠点回収の推進」併せて拠点回収を検討していきたいと考えます。 |
| ⑦⑥小型家電製品の拠点回収の推進 | 希少金属（レアメタル）のリサイクルを行うため、小型家電製品の拠点回収に向け取り組んでいく。 | 新規 | 9 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○「新規」より「追加」の方が適切。前回の策定から年月が経過しているため新規としての項目追加は理解でき、「新規」＝「町の重点取組」として理解する方も多くなるが、社会的要請であるため町の呼びかけも一般論となる。 (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：1件) ○事業者では？ | 新規 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。「新規」より「追加」とすべきとのご意見もありますが、リサイクルのための新たな取り組みとして「新規」＝「町の重点項目」として取り組み、拠点回収（本庁・支所など）に向け推進していきたいと考えています。 |

【その他（啓発活動）】

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 |
|------------------------------|--------------------------------------|-------------|--|---|
| ①広報誌や環境特集号などによるごみの分別や減量情報の発信 | 広報誌や環境特集号、自治会報紙にごみの分別や減量に関する情報を発信する。 | 継続 | 9 / 10 (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○町民の減量化取組・参加のためにPR戦略は重要。町の広報誌以外の策がまったくない。ごみステーション地域では、その場所も重要なPR拠点であり、回収いただいている店頭もPR拠点である。コラボ計画はあるのか。 | 強化 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。有効な啓発手段として、広報とよの、環境特集号、ホームページなどにより、今後とも積極的に啓発に取り組んでいきたいと考えています。なお、ホームページについては、ごみの分別について、もっと簡 |

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 |
|---------------------|--|-------------|--|--|
| | | | (事務局案と同じであるが、補足的説明を述べられた意見：1件) ○わかりやすい数値化、比較化をお願いしたい。 | 単に検索が行えるように改善に向け取り組んでいきたいと考えています。 |
| ②学校での教育環境への支援 | 小学校等の総合的な学習の時間などに講師を派遣し、ごみ減量やリサイクルの推進についての授業を支援する。 | 継続 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○積極的な取組みが望まれる。待ちの姿勢でなく各自治会に呼びかけて実施するなど。町主催、協賛イベントなどで啓発コーナーの展開も検討すべき。公民館、図書館等の公共施設、高齢者施設等への常設展示や持ち回りを検討する。「ゆめほたる」を見学した人の減量化意識の高揚は顕著であり、「協働」による見学会等定期開催をすべき。ボランティアの育成を戦略的に行う必要がある。 | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。現在、一部の小学校と園でのみ環境教育を行っているところですが、学校数を増やすなどにより積極的に取り組んでいきたいと考えています。なお、学校等以外では、井戸端会議で対応していきたいと考えています。 |
| ③地域でのごみ減量に関する学習会の開催 | 地域ごとにごみ減量についての学習会や意見交換会（井戸端会議など）を開催し、ごみ減量方法などの知識を広める。 | 継続 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：3件) ○誰も集まらない。知識はあるが、やる気が無い。 ○井戸端会議にとどまらず、町内各地順にクリーンセンター見学を実施してほしい。 ○積極的な取組みが望まれる。待ちの姿勢でなく各自治会に呼びかけて実施するなど。町主催、協賛イベントなどで啓発コーナーの展開も検討すべき。公民館、図書館等の公共施設、高齢者施設等への常設展示や持ち回りを検討する。「ゆめほたる」を見学した人の減量化意識の高揚は顕著であり、「協働」による見学会等定期開催をすべき。ボランティアの育成を戦略的に行う必要がある。 | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。地域ごとに学習会（井戸端会議など）や意見交換会を行うことは、ごみの理解を深める場として重要な機会と考えられるため、ごみ減量化推進員との連携を図るとともに、広報等を通じ、より積極的に取り組んでいきます。また、国崎クリーンセンターの見学会の実施も行っていきたいと考えています。 |
| ④廃棄物減量等推進員の育成 | ごみ減量やリサイクルの推進に関する意見交換会やリサイクル施設の見学会などを開催し、廃棄物減量等推進員を育成に努める。 | 継続 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：2件) ○推進員になり手がなく、なってもその人が推進するとは思えない。 ○積極的な取組みが望まれる。待ちの姿勢でなく各自治会に呼びかけて実施するなど。町主催、協賛イベントなどで啓発コーナーの展開も検討すべき。公民館、図書館等の公共施設、高齢者施設等への常設展示や持ち回りを検討する。「ゆめほたる」を見学した人の減量化意識の高揚は顕著であり、「協働」による見学会等定期開催をすべき。ボランティアの育成を戦略的に行う必要がある。 | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。ごみに関する理解を深めていただくため、研修や見学会などを通じて知見を高めていただくとともにごみに関する地域住民のリーダーとして活動いただくための場の提供に取り組んでいきます。また、国崎クリーンセンターの見学会の実施も行っていきたいと考えています。 |
| ⑤転入者への分別指導の徹底 | 転入届提出時などに分別方法とごみの出し方を周知する。 | 継続 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○ごみの分類・出し方の50音別は非常に良いが、HP上でもPDFでダウンロードできるだけであり、スマホ普及時代、簡単に検索できるよう情報伝達の仕組み、HPのサイト構成を見直すべき。 | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。転入者に対する、ごみの分別・出し方を周知することにより、ごみの減量・資源化が進むものと考えられますので、今後とも積極的に取り組んでいきたいと考えます。なお、ホームページについては、ごみの分別について、もっと簡単に検索が行えるように改善に向け取り組んでいきたいと考えています。 |
| ⑥収集時の現地指導の徹底 | ごみに資源が大量に混入していた場合などは現地指導（収集職員による直接指導やシールによる指導）を徹底する。 | 継続 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：2件) ○ごみステーションの場合、シールが貼られたまま半月以上放置されていることがある。シール以外に何か良い方法はないものかと思う。 ○町民の減量化取組・参加のためにPR戦略は重要。町の広報誌以外の策がまったくない。ごみステーション地域では、その場所も重要なPR拠点であり、回収いただいている店頭もPR拠点である。コラボ計画はあるのか。 | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。ごみステーションでは排出日が違うものや不法投棄されているものにシールを貼って、正しい排出日を守ることで、また、不法投棄物の持ち帰りをいただくよう一定期間、啓発しているところです。今後とも、適正なごみ排出に協力していただく手段として取り組んでいきたいと考えています。 |
| ⑦事業所に対する適正処理の指導・啓発 | 町内の事業所に対し、事業系ごみの適正処理を行うよう指導・啓発を行う。 | 継続 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○事業系の課題が不明瞭。「適正処理」を訴えているが重点取組は？現状分析が不明と思うが事業者任せにはできないのでは。 | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。事業活動によって生じる廃棄物は、事業者の責務によって処理することとされていますが、事業者の排出状況を把握し、適正処理はもとより、減量について協力を求めていきたいと考えています。 |

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 | |
|-----------------------|--|-------------|--------------------|---|---|
| ⑧パートナーシップで進めるごみ減量・資源化 | 住民、事業者、行政の3者によるパートナーシップに基づき、ごみ減量・資源化に向けた啓発を行う。 | 継続 | 9 / 10 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○パートナーシップとは何か、何をするのか、わからない。総合的な項目で一番目に入れてもおかしくない項目だと思うが、具体性がないと無意味である。 | この項目については別枠に記載します。 |
| 全体 | | | | ○啓発活動は重要な項目であり、「その他」ではない。「啓発総合戦略」は重要。項目は理解できるが具体施策は希薄。「ボランティア育成」は「協働」として重要であり、項目追加を提案。 | 委員のご意見と同様に、啓発活動は4Rの推進と併せて取り組む重要項目として認識しています。また、「ボランティア育成」については、「ごみ減量化推進員」との役割が類似すると考えられるため、制度化を含め検討課題にしたいと考えています。 |

【広域連携の強化】

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 | |
|----------------------|---|-------------|--------------------|---|---|
| ①猪名川上流広域ごみ処理施設組合との連携 | ごみの収集方法及びリサイクル方法について調整を図る。リサイクルプラザの利用を促進し、ごみ減量と資源化についての啓発を推進する。 | 継続 | 8 / 10 無 1 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○具体策がない。町のやるべきことを明記すべき。(主体者意識に欠ける) | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。猪名川上流広域ごみ処理施設組合において、ごみ収集方法およびリサイクル方法について調整を図っているほか、組合を構成する1市3町で連携して、ごみ減量・資源化を推進しています。特に可燃ごみの減量に重点を置くなかで、更なる分別の徹底により資源化を図り、1市3町で連携してごみ処理事業を推進していきたいと考えています。 |
| ②豊能郡環境施設組合との連携 | 豊能郡美化センター建物跡地周辺の事業として環境監視事業等が残っており、組合と連携を図る。 | 継続 | 8 / 10 無 1 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○具体策がない。町のやるべきことを明記すべき。(主体者意識に欠ける) | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。豊能郡環境施設組合と連携し、様々な事業を進めていきたいと考えています。 |
| ②③近隣自治体との連携 | 猪名川上流広域ごみ処理施設組合を構成する1市3町で連携して、ごみの減量・資源化を推進する。 また、平成27年7月に、北摂地域の自治体と災害等廃棄物の処理に係る相互支援協定を締結しており、災害等の発生時にはその協定に基づき廃棄物の適正な処理をめざす。 | 継続 | 8 / 10 無 1 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○具体策がない。町のやるべきことを明記すべき。(主体者意識に欠ける) | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。現在、具体的な事業はありませんが、災害発生時における廃棄物処理の協力など北摂地区をはじめ、近隣自治体との連携は重要であることから、積極的に共同事業等に参加していきたいと考えています。 |

【重点施策・基本理念】

| 具体的施策 | 分類 | 事務局 意見賛同 | 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 | |
|----------------------|----|-------------|--------------------|---|---|
| パートナーシップで進める循環型社会の形成 | | 継続 | 7 / 10 無 2 | (事務局案と異なるとして述べられた意見：1件) ○基本理念=パートナーシップは必須で理解できるが、それぞれの役割を明記し、それぞれの具体的「重点項目」を掲げないと実行できない。 | 多くの委員の方は継続していくほうが良いとされています。ごみの減量・資源化の主体は実際にごみを排出する住民と事業者です。その両者と行政が、いかに連携し、協力できるかにかかっていると思われます。そこには、三者の共感を共有するというベース(素地、礎)がないと成り立たないので、このベースこそがパートナーシップであり、本計画の中核をなす基本理念であると考えています。 |

【その他意見（全般）】

| 委員意見整理 (委員名敬称略) | 意見を踏まえた町の考え方 | |
|---|--------------|--|
| <p>○アンケート結果により、町民のごみ減量に対する意識が高いように判断されているようですが、アンケートに記入されている方は意識の高い方。減量なんて・・・意識外の方は無回答になるように感じ、意識が高いとは言い切れないように思います。(町民の意識を) ひきつけるような広報、よろしくお願いいたします。</p> <p>○施策の方向性について。⇒事業評価(①住民がそれぞれの取組むことに対し、行政からの協働呼びかけに共感を得られること、②協働呼びかけに対し行政として取り組める機会を設ける、③住民の意識を更に高揚、加速させる項目であること、④減量化への効果の高い施策(即効性と投資効果のバランス)、⑤諮問機関を踏まえた中長期の施策構築等の判断を行う必要がある)⇒強化、継続等のランク分けは住民にとって「町事業決意の表れ」と認識されることが重要である。</p> <p>現状案では「強化」するのはごみ収集有料化のみ。これでは住民の納得が得られない。アンケート結果からも町の評価と住民評価のギャップを埋める主体者としての施策が入っていない。「新規」はレアメタルの回収？</p> <p>リフューズ、リデュース、リユース、リサイクルの4Rについて、それぞれ「強化」「継続強化」「継続」の三段階で取組レベルの共有が必要かと思う。住民の理解が減量化のキーである。その観点から、次回審議会で再検討をお願いしたい。</p> | | |